

富山大学 学報

第221号

目 次

学 長 告 辞	2	学 内 諸 報	21
関 係 法 令	4	トリチウム科学センター長の改選	21
学 内 規 則	4	海外渡航者	21
富山大学工学部国際規制物資計量管理規則の 制定	4	学内レクリエーション	22
諸 会 議	6	退職者を囲む懇談会開催	22
学 事	7	職 員 消 息	23
昭和57年度日本学術振興会ナポリ臨海実験所 派遣研究者の決定	7	主 要 行 事	25
外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ	7	資 料	28
昭和56年度富山大学並びに富山大学経営 短期大学部卒業式（修了式）挙行	11	昭和56年度卒業（修了）者数	28
人 事 異 動	14	昭和56年度大学院修了者数	28
		昭和57年度富山大学並びに富山大学経営 短期大学部入学者選抜状況	29
		昭和57年度授業日程表	30

学 長 告 辞

昭和56年度富山大学卒業式 学長告辞

ただいま卒業証書を授与されました1,144名にのぼる諸君は、少年時代からの永年にわたる学校生活の最後をわが富山大学で締めくくられ、だれからも祝福されながら、いよいよ社会に巣立ってゆかれる方々であります。私ども本学教職員一同諸君の洋々たる前途に大なる期待を寄せながら、心からおめでとうと申し上げたいと思います。

さて、諸君の一人一人は、長かった学校生活を終えるに当たって、それぞれの感慨を持って、いわゆる大人社会に旅立たれてゆくのでありますが、すべての方々に共通していえると思われることは、学生生活という内容的には比較的単純な社会生活から、多くの次元で動いている複雑な社会生活へ移行するのに当たって、多少なりとも戸惑いを感じておられるのではないかということです。そこで本日は、そのような複雑な社会構造の中での生き方について考えてみたいと思います。

一般に動物が社会生活を営む上で、欠かすことができないのは個体間あるいは群集間の、コミュニケーションを介しての意思決定であります。そこではじめにミツバチのような原始社会生活を営んでいる動物社会における意思の表示と決定の仕方について述べてみましょう。この分野の研究によりますと、例えばミツバチの一つの集団の個体密度が過密になってくると、分封といって、その集団の一部が古参の女王蜂と一緒に分家して、別に巣を営むことになることは皆様御承知のとおりです。その場合分封した集団は、一時本家の近くに群がり集まって、木の枝などに房のようにぶら下がっているのですが、その頃一部の働き蜂は新しい巣を営むのに適当な場所を探し求めて飛び回っているのです。そして何らかの場所を見つけた働き蜂は、皆の集まっている房の所に帰ってきて、特殊な踊りを舞って、その方向、距離などを他の蜂に知らせるのです。その場合、自分の見つけた場所に自信のある蜂は自信に満ちた独得な踊り方をし、また、余り自信のない蜂はショボショボした踊り方をするのだそうです。他の蜂はこれらを見て、実地検分をして帰ってきて、また、自分達の意味を伝達するのですが、これを繰り返しているうちに、最終的には衆議一決、房を作って集まっていたミツバチ集団全員が、新しい場所に飛んでいって、巣を作るのだそうです。時には巣を作る場所の選定に関して、ミツバチ集団の間に意見の不一致をみることもあるのだそうですが、そんな場合にはその集団は滅びてしまうことがあるということです。ミツバチ社会では、このようにしていかにも民主的ルールに従って、一つの集団の意思決定をしてゆくのですが、それが比較的スムーズに行われるというのは、ミツバチの社会構造そのものが原始的であって社会生活における価値判断の基準が比較的簡略なためであり、また、一匹一匹の個体の自己意識が低いためであると考えられます。

ひるがえって我々人間社会をみると、とてもミツバチ社会のように簡単には物事が運ばないのは、当然といえば当然でしょう。それは個人個人をみても物事に対する価値観にかなりの幅があり、さらに民族とか国家とかいう集団の一つ一つは、それぞれの文化あるいはイデオロギーを基盤とした独自の価値観を持っているからであると思います。しかし、人間のような高等な社会においても、個々人の自己意識が低い場合には、しばしばミツバチに似たような社会行動をとるようになることは、歴史が物語っています。我が国民全体がああいまわしい戦争にかり立てられたのも、また、中国の文化大革命も、近くはイランのイスラム教徒による革命も、すべて単元的価値観社会で起ったことでした。

ここで、最近の社会状況に目を転じてみましょう。現代は、人々の価値観も異なり、また、社会環境そのものもますます高度に分化する方向へと進んできており、いわゆる多様化社会とまでいわれています。このことはそれだけ人間らしい社会構造になってきたことを示しているのではないのでしょうか。その結果、以前のように少数のオピニオンリーダーの言うがままに一般大衆が引っ張られてゆくといった可能性が、これまでよりは低下したといえると思

ます。そしてこのような社会構造をまともな姿に支えてゆく上で、重要な役割を果たしているのが教育だと思うのです。特に諸君のように高等教育を受けた方々の現代社会における位置の重さは大きなものがあります。諸君は、この点を十分に自覚して大学時代に培った自己と、物を見る目とを、今後とも大切にしていきたいと思えます。

さて、諸君はいよいよ現代の多様化社会に船出するわけですが、これから諸君は、何らかの手段によって自己を明確に表現する必要があると共に、一方では社会環境から受けるあらゆる情報を正しく受け止め、対処してゆかねばなりません。ここで自己の表現といった場合、何も言葉による表現のみがその手段ではないと思えます。多くの方々の中には口数の少い方や控え目な方であっても、十分自己を表現し、他人に強いインパクトを与える方がおられます。その場合は、その方の行動そのものが立派なコミュニケーションの媒体となっているのです。また、我々学者が一仕事して論文を書く場合、自分の仕事のどの部分を最も印象的にうたいあげたらよいかに、工夫を凝らすものです。これは学者だけでなく、社会人はだれしも文章というコミュニケーションの手段によって効果的な自己主張をせまられるのであります。諸君はこれから社会のあらゆる分野に出て行かれて、恐らく常に自分の話すべき言葉、書くべき文章、そして振る舞うべき行動の上で、何かと苦勞されることと思えます。そんなとき学生時代に多くの先生方から聞いた言葉、あるいは友人との付き合いで得た経験が生きてくることになると思えます。

若い諸君にとって今後の多様化社会の中で、大きな問題となってくるのは、これからの国際化の傾向に対して、どのように対処すべきかということでしょう。異なった文化で彩られた民族と民族との間、あるいは国と国との間では、一つの社会の中での個人差とは比較にならないほど、物事に対する考え方に相違のあることは、皆さんもよく承知しておられることと思えます。日本人は欧米人と比べると自己の意思表示に関しては、万事につつましく、はっきりしたものの言い方をしないので、欧米人にとっては日本人の気持が分かり難いとよくいわれています。そして、このことは最近話題になっています貿易摩擦の一因になっているともいわれています。確かに日本語一つとってみても、私とか貴方とかいう人称代名詞を余り用いずに、自分を相手からはっきり区別しないでも十分会話できるように構成されているのです。欧米語のように人称代名詞を明確に用いる習慣を身につけた欧米人にとって、日本語を学ぶ際に、一番難しいのがこの点だともいわれています。しかも日本人は感情の表し方についても、欧米人に比べれば極めて控え目です。日本人と欧米人との間にはこのように、コミュニケーションの上で、言語のみならず、行動面でも大きなギャップがあるのです。この事実を相互にはっきり認識し合って、はじめて真の意思疎通がはかれるのだと思えます。すなわち相互に自己を客観化すること、言い換えると、自分の文化を異文化の光で照らしてみること、また、逆に相手の文化を自分の文化の光で照らしてみることが必要なのではないのでしょうか。同じことは異民族間の付き合いのみならず、個人同志の付き合いでも言えると思えます。自分の考え方を相手の考え方で見直したり、また、別の観点からも多角的に見直してみることが必要なのです。幸い諸君は私などと違って、若さという強力な武器を持っており、それだけ頭の構造が柔軟なはずで、物を見るのに、固定観念にとらわれず、あらゆる角度から見るような習慣を身につけていただきたいと思えます。

諸君がこれから生きてゆく世の中では、莫大な量の情報が飛び交う中で、価値観を異にし、種々雑多な社会環境に生きる人達を相手にせざるを得ない状況にあると思えます。そんな中で見失ってほしくないのは、貴方方自身です。人が自分の存在を見失ったとき、その人は人間としての価値を放棄したことになります。諸君は、自分を見失わないようになるために、これまで教育を受けてきたのです。諸君の一人一人が自己についてはっきりした意識を持ち続けて、それぞれの道で活躍されることを期待します。

私は今、たくましい漁師の乗った漁船が、汽笛を鳴らしながら波の高い荒海に船出してゆくのを、祈るような気持ちで見送るという心境であります。

どうか張り切って楽しい航海をして大きな収穫を収めて下さい。

昭和57年3月25日

富山大学長 柳田 友道

関 係 法 令

省 令	(官報掲 載月日)
○大学設置基準の一部を改正する省令(文部1)	3・23
○短期大学設置基準の一部を改正する省令(文部2)	3・23
規 則	
○人事院規則(行政職俸給表(-)の八等級の官職等への任用候補者名簿による職員の任用に関する特例等)の一部を改正する規則(人事院8-13)	3・8
○人事院規則(採用試験)の一部を改正する規則(人事院8-18)	3・8
告 示	
○短期大学の廃止を認可した件(文部30)	3・2
○短期大学の位置変更に関する件(文部31)	3・9
○昭和57年度における発明実施化試験費補助金について発明実施化試験費補助金交付申請書の提出期間を定める件(科学技術庁3)	3・12
○昭和57年度の司書及び司書補の講習を委嘱した件(文部37)	3・27
○大学院及び大学院の研究科の設置を認可した件(文部38)	3・27

学 内 規 則

富山大学工学部国際規制物資計量管理規則の制定

富山大学工学部国際規制物資計量管理規則を次のとおり制定する。

昭和57年 3 月12日

富山大学長 柳田 友道

富山大学工学部国際規制物資計量管理規則

(目 的)

第1条 この規則は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律(昭和32年法律第166号。以下「法律」という。)第61条の8第1項の規定に基づき、富山大学工学部(以下「本学部」という。)における法律第61条の3第1項に定める国際規制物資の使用の承認を得たすべての核燃料物質の計量及び管理(以下「計量管理」という。)に関し必要な事項を定め、もって適正な計量管理制度の確立を図ることを目的とする。

(定 義)

第2条 この規則において「国際規制物資」とは、法律第2条第8項に規定する核燃料物質をいう。

(計量管理責任者)

第3条 本学部における核燃料物質の計量管理のために計量管理責任者を置くものとする。

2 本学部における計量管理責任者は、工業化学科環境化学講座の教授をもって充てる。

3 本学部における計量管理については、計量管理責任者の責任の下に行う。

(物質収支区域の設定)

第4条 本学部における物質収支区域については、本学部の施設全体をもって設定し、計量管理については、この物質収支区域を基礎として行う。

2 本学部の物質収支区域の符号は、KSAQ とする。

(記 録)

第5条 計量管理責任者は、別紙様式の国際規制物資受払簿に次の各号に掲げる事項について次条から第8条までの規定に基づき記録するものとする。

(1) 供給当事国

(2) 国際規制物資の種類及び重量

(3) 在庫変動の日付

(4) 在庫変動の原因

(5) 受入れ、払出し又は廃棄を行った事業所名

2 計量管理責任者は、受払簿を10年間保存するものとする。

(受入れ、払出し及び廃棄に関する手続)

第6条 計量管理責任者は、国際規制物資の受入れ、払出し及び廃棄に立会い、当該受入れ、払出し又は廃棄の数量をその都度記録するものとする。

(消耗、希釈等に関する手続)

第7条 計量管理責任者は、国際規制物資が消耗、希釈等により減少した場合には、当該数量を毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間について確認し、記録するものとする。

(事故損失に対する手続)

第8条 計量管理責任者は、事故により国際規制物資の損失が生じたとき又は生じたとみなされたときは、その都度数量を確認し、記録するものとする。

(報 告)

第9条 計量管理責任者は、法律第67条及び国際規制物資の使用に関する規則第7条第17項の規定に基づき、毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間に係る報告書を作成し、当該期間経過後1月以内に学長を経由して科学技術庁長官に提出しなければならない。

附 則

この規則は、昭和57年3月12日から施行する。

▶富山大学工学部国際規制物資計量管理規則の制定理由

工学部において国際規制物資である劣化ウランを研究用として使用するに当たり、これの適正な計量及び管理を行うため。

別紙様式

国際規制物資受払簿

富 山 大 学

国際規制物資の種類				供給当事国									
事業所		工学部		使用場所									
在庫変動の原因及びその数量	増			減							残高	備考	
	在庫変動の日付(年月日)	受入	その他	計	払出	消耗	希釈	廃棄	事損	故障			その他

諸 会 議

昭和56年度第 4 回教務委員会 (3 月 2 日)

(審議事項)

- (1) 富山大学教務委員会規則の改正(案)について
- (2) 富山大学教務委員会教職科目専門委員会内規(案)制定(案)について

第 1 回短期高等教育機関 (高岡) 創設準備委員会 (3 月 5 日)

(審議事項)

- (1) 短期高等教育機関 (高岡) のその後の審議経過について
- (2) 専門委員会の設置について

昭和56年度第 7 回大学院委員会 (3 月 13 日)

(審議事項)

- (1) 昭和56年度富山大学大学院理学研究科 (修士課程) 及び工学研究科 (修士課程) 修了者の認定について

昭和56年度第12回評議会（3月13日）

（報告事項）

- (1)昭和56年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）修了者の認定について
 (2)教官人事について（教育学部，工学部）
 (3)学生の動向について

（審議事項）

- (1)昭和57年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について
 (2)昭和56年度卒業及び修了者の認定について

昭和56年度第18回学寮補導委員会（3月15日）

（審議事項）

- (1)学寮の諸問題について

 学 事

昭和57年度日本学術振興会ナポリ臨海実験所派遣研究者の決定

所 属	職	氏 名	研 究 課 題	派 遣 期 間
理 学 部	講 師	道 端 齊	ホヤの微量金属元素濃縮機構の研究	57.10.1～57.12.14

外国政府等からの留学生等の募集のお知らせ

毎年、外国の政府・研究機関・団体等から留学生・研究員等の募集が数多く行われ本学にも多くの通知が入っていますが、参考までに昭和56年度に通知のあったものをまとめてみました。

なお、これらの募集通知については、毎年一定しているものでなく、その年度によって若干の変更あるいは募集しないものもあり、またこの外にも各種財団等から募集がある場合もありますので、この点お含みおきの上参考にして下さい。

募集要項等の詳細は、各部署の庶務（総務）係にお問い合わせ下さい。

関係国	名 称	募集人員	専 攻 分 野	応 募 資 格 (共通事項 ・日本国籍を有する者 ・十分な外国語の能力 を有する者 ・心身ともに健全な者)	待 遇	関 係 機 関 (募集通知時期)
アイル ランド	アイルランド政府 奨学金留学生	1名	制限なし	・大学卒業者	・期間 9月 ・奨学金 総額 1,050ポンド ・授業料	(財)日本国際教 育協会留学情報 センター (4月)

アジア諸国 (インド、ネパール、パキスタン、スリランカ、インドネシア、大韓民国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、モンゴル、トルコ、エジプト、中国)	アジア諸国等派遣留学生	9名程度	留学対象国の言語、歴史、文化又は社会の分野	<ul style="list-style-type: none"> 大学院博士課程若しくは修士課程に在学している者又は大学を卒業後研究に従事している者 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 2年 奨学金 月額 100,000円 一時金 年額 30,000円 往復航空運賃 	文部省学術国際局ユネスコ国際部留学生課 (4月)
アメリカ合衆国	NIH奨励研究員	6名	医学、生物学、生化学、生理学、歯学、薬学、獣医学等	<ul style="list-style-type: none"> 博士号所有者 35歳以下優先 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 原則として1年 滞在費 年額 16,000～20,000ドル 往復旅費 	日本学術会議 (1月)
イスラエル	イスラエル政府奨学金留学生	若干名	制限なし	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者(含む見込者) 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 9月 奨学金 月額 2,025イスラエルシエケル 授業料免除 	(財)日本国際教育協会留学情報センター (10月)
イタリア	イタリア政府奨学金留学生	17名	人文科学、社会科学、自然科学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 1学年又は2学年間 奨学金 月額 330,000リラ 往復航空賃 	同上 (2月)
インド	インド政府奨学金留学生	6名	同上	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 2年 滞在費 月額 500ルピー 書籍代 年額 300ルピー以内 授業料免除 	同上 (1月)
オーストリア	オーストリア政府奨学金留学生	4名	人文科学、社会科学、自然科学	<ul style="list-style-type: none"> 大学の学部2年次修了以上の学歴を有する者 20歳以上35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 9月 奨学金 月額 5,000～6,500オーストリアシリング 授業料免除 渡航費一部補助 	同上 (12月)
スイス	スイス政府奨学金留学生	2名	人文学科、社会科学、自然科学、芸術	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 9月 (1年間の延長が認められることもある) 奨学金 月額 900～1,100スイスフラン 授業料免除 帰国旅費 	同上 (10月)
スウェーデン	スウェーデン政府奨学金留学生	1名	人文科学、社会科学、自然科学	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者(含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 8月 奨学金 月額 2,600スウェーデンクローネ 渡航費一部補助 	同上 (11月)
	Swedish Institute 奨学金留学生		スウェーデン以外の国においては、十分な研究ができない分野	<ul style="list-style-type: none"> 年齢制限なし 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 3～4月から3学年以内 奨学金 月額 2,600スウェーデンクローネ 	Swedish Institute (10月)

	スウェーデン派遣研究員	3名	産業科学技術及び医療工学	<ul style="list-style-type: none"> • 大学卒業者 	第1種 期 間 2年 奨学金 288万円 第2種 期 間 1年 奨学金 144万円 第3種 期 間 3月 奨学金 36万円 渡航費一部補助	(社)日瑞基金 (9月)
タイ	タイ政府奨学金留学生	フェロースhip 6名 スカラースhip 4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 美術	<ul style="list-style-type: none"> • フェロースhip 大学卒業者 (含む見込者) • スカラースhip 高校卒業者 (含む見込者) で30歳以下の者 	<ul style="list-style-type: none"> • フェロースhip 期 間 1年 給 費 年額 20,000パーツ • スカラースhip 期 間 1~6年 給 費 年額 15,000パーツ 	(財)日本国際教育協会留学情報センター (2月)
大韓民国	大韓民国政府奨学金留学生	2名	人文科学, 社会科学, 自然科学	<ul style="list-style-type: none"> • 大学卒業者 • 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 修士課程 2年 博士課程 3年 • 奨学金 月額 250,000ウォン • 着後一時金 66,000ウォン • 往復航空賃 • 図書購入費 • 入学金, 授業料免除 	同 上 (2月)
チェコスロバキア	チェコスロバキア政府奨学金留学生	2名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	同 上	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 2年 • 奨学金 月額 14,000チェコクラウン 	同 上 (6月)
中 国	中国 政府奨学金留学生	高級 進 修 生	現代中国語, 中国語, 中国文学, 中国歴史, 哲学, 政治経済学, 考古学, 美術, 美術史, 建築学, 薬学, 漢方薬学, 医学, 中国医学	<ul style="list-style-type: none"> • 原則として大学院に在籍する者又は大学卒業後研究教育に従事している者 • 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 1年程度 • 奨学金 月額 140元 • 学費免除 	同 上 (4月)
		普通 進 修 生	同 上	同 上 (大学の3年次以上に在籍している者も可)	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 1~2年 • 奨学金 } 同 上 • 学 費 } 	
デンマーク	デンマーク政府奨学金留学生	<ul style="list-style-type: none"> • 研究奨学金 5名 • 学部奨学金 2名 	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> • 研究奨学金 大学卒業者 (含む見込者) • 学部奨学金 大学3年次以上に在学する者 	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 8月 • 奨学金 月額 研究奨学金 3,065デンマーククローネ 学部奨学金 2,660デンマーククローネ • 旅費一部補助 	同 上 (11月)
ドイツ連邦共和国	ドイツ 学术交流会(DAAD) 奨学金留学生	25名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術 (音楽, 美術)	<ul style="list-style-type: none"> • 昭和25年10月2日以降に出生の者 • 人文, 社会科学専攻 原則として修士課程在学者又はそれ以上の学歴を有する者 • 自然科学専攻 修士課程修了者 (ただし, 医・歯学専攻は学部卒業者でよい) • 音楽専攻 学部3学年在学以上 	<ul style="list-style-type: none"> • 期 間 1年 • 給 費 月額 770~870 ドイツマルク (場合によっては1,300ドイツマルク) • 家族手当 • 支度料 • 保険料 • 専門書籍代 • 往復旅費 	同 上 (9月)

	奨学金特別給付計画に基づく奨学生	10名	ドイツ語, ドイツ文学	<ul style="list-style-type: none"> 32歳未満の者 ドイツ語, ドイツ文学を専攻する大学院修士以上の課程の修了者で大学においてドイツ語, ドイツ文学の教育を担当し, 帰国後もとの職務に復しうる者 (同大学院の在学者を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 1年 奨学金 月額 770~870 ドイツマルク (場合によっては 1,300ドイツマルク) 家族手当 支度料 保険料 荷物運賃 書籍購入費 往復航空運賃 	文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (8月)
	ドイツ語担当教員のドイツ派遣	15名	(ドイツ語教育に関する研修)	<ul style="list-style-type: none"> 国公立の大学, 短期大学, 高等専門学校学校の教員 30歳以上50歳以下の者 最近3年以内にドイツにおいて研究に従事又は研修を受けたことのない者 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 約3月 滞在費及び研修経費 往復航空賃 	同 上 (12月)
トルコ	トルコ政府奨学金留学生	若干名	トルコ語, トルコ文学, 歴史, 地理, 美術, 農学	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業生 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 8月 奨学金 月額 8,000トルコリラ 	(財)日本国際教育協会留学情報センター (5月)
ハンガリー	ハンガリー政府奨学金留学生	4名	人文科学, 社会科学, 自然科学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業生 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 18月 奨学金 月額 4,000フォリント 宿舍提供 	同 上 (5月)
フィンランド	一般奨学金	2名	同 上	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業生 (含む見込者) 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 4~9月 奨学金 月額 1,300フィンランドマルク 授業料免除 	同 上 (1月)
	フィンランド政府奨学金留学生		フィンランド語, フィンランドの歴史, 考古学, 民族学, 文学, 政治学	<ul style="list-style-type: none"> 同上 大学院レベルの学生が優先 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 3~9月 奨学金 同 上 	
フランス	フランス政府給費留学生		文学, 人文・社会科学, 自然科学, 農業, 医学, 工学, 芸術	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業生 (含む見込者) 第一部門 (仏文学, 語学, 演出) 30歳未満, ただし現在フランス語の教職にあるか将来その予定であり, 外国語としてのフランス語教育法を学ぼうとする者は40歳未満 第二部門 (人文科学) 及び第三部門 (自然科学, 農業, 医学, 工学) の者は40歳未満 音楽関係受験者は, フランス大使館文化部に年令制限規定を問合せること その他の芸術部門は33歳未満 	<ul style="list-style-type: none"> 期 間 9月 給 費 月額 1,700~2,500 フラン 帰国旅費 授業料 	同 上 (9月)

ベルギー	ベルギー政府奨学金留学生	8名程度	芸術, 物理学, 数学, 化学, 生物学, 動物学, 植物学, 地質学, 地理学, 工学, 医学, 獣医学, 薬学, 農学, 社会学, 政治学, 経済学, 法学, 文献学, 歴史学, 哲学, 心理学, 教育学	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者 35歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 1年 奨学金 月額 14,000ベルギーフラン 帰国旅費 授業料 図書教材費 	同上 (2月)
メキシコ	大学で開設中の講座を受講する留学生	30名	スペイン語, メキシコ及び中南米の歴史, 地理, 文学, 法律, 経済	<ul style="list-style-type: none"> 大学の学部又は大学院修士課程に在学中の者, あるいはこれらを卒業又は修了した者 30歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 約10月 滞在費 月額 6,100ペソ 授業料免除 往復航空運賃 	同上 (11月)
	メキシコ政府交換留学生		大学等において特定のテーマによる専門的研究を行う留学生	財政, 経済, 文学, 歴史, 医学, 農学等		
ユーゴスラビア	ユーゴスラビア政府奨学金留学生		人文科学, 社会科学, 文化 (ユーゴスラビアの大学で受入れ可能な分野)	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者 (含む見込者) 40歳未満の者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 3~9月 奨学金 月額 7,300ディナール (学生寮に入る場合は 6,200ディナール) 書籍購入費 国内研修旅費 	同上 (11月)
連合王国	ブリティッシュ・カウンシル・スカラシップ (留学生)	10数名	理学, 工学, 医学, 人文・社会科学, 芸術, 教育 (含む英語教育)	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業者 25歳から35歳までの者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 9~12月 滞在費 月額 251ポンド 往復旅費 	ブリティッシュ・カウンシル (8月)
	国立大学等英語教育担当教員の連合王国派遣	8名	英語	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学等において英語教育を担当する専任教員 30歳以上50歳以下の者 最近5年以内に連合王国又はアメリカ合衆国において研究に従事又は研修を受けたことのない者 	<ul style="list-style-type: none"> 期間 約2月 滞在費 受講料 往復航空賃 	文部省学術国際局ユネスコ国際部国際教育文化課 (2月)

昭和56年度富山大学並びに富山大学経営短期大学部卒業式 (修了式) 挙行

昭和56年度富山大学並びに富山大学経営短期大学部卒業式 (修了式) は、3月25日(木)午前10時30分から富山市公会堂において挙行されました。

当日は、小雪模様の天候であったが、式終了後公会堂前では各クラブの後輩達による胴上げなどが見られ、引き続き各学部ごとの卒業記念祝賀会が各会場で執り行われました。なお、大学院の学位記授与者は次のとおりです。

昭和56年度富山大学大学院理学研究科修士課程修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
数 学 (1名)	昭和55年度	林 清 隆	Toeplitz Operators と Spectral Properties について
物理学 (7名)	〃	岩 崎 慎太郎	Ho(Ni, Co, Cu) 系化合物の磁性と電気伝導
	〃	坂 本 高 康	電気抵抗自動測定装置の製作及び Bi-Tl 系の電気抵抗の研究
	〃	高 田 敏 弘	レーザー・シュタルク分光における計算機制御の研究
	〃	丹 保 亮	CH ₃ SD 分子のマイクロ波スペクトル (振れ振動の第1励起状態)
	〃	堂 田 伸 俊	レーザー・マイクロ波二重共鳴法による HDCO 分子の振動励起状態の研究
	〃	中 村 公 弘	非晶質 Ge-S 系の結晶化とその構造
	〃	平 野 登	非可換ゲージ場の理論におけるゴースト場の微分幾何学的意味について
化 学 (3名)	〃	大 平 豊	ベンゾフロキノリン誘導体の研究
	〃	坂 本 哲 夫	金属水酸化物との共沈現象に及ぼす共存物質の影響
	〃	宮 部 寛 志	Formation of Ferron Complexes in the Presence of Cationic Surfactants
生物学 (6名)	〃	少 作 智 子	Reproduction and development in two species of Japanese ophiuroid (Echinodermata)
	〃	中 島 淑 人	8 M尿素処理の R-フィコエリソリンについて
	〃	八 田 健 一	モエジマシダ配偶体における造精器分化の機構解析
	〃	山 崎 伊佐雄	Study on specific accumulation of trace elements by ascidians <i>Ciona intestinalis</i> , <i>Ciona robusta</i> and <i>Halocynthia roretzi</i> .
	〃	吉 井 亮 一	立山高原泥炭層の花粉分析
	昭和54年度	杉 本 守	ヘビイチゴとヤブヘビイチゴの分類学的研究

昭和56年度富山大学大学院工学研究科修士課程修了者

専攻	入学年度	氏名	論文題名
電 気 工 学 (4名)	昭和54年度	有 須 恭 久	コオロギ (<i>Gryllus bimaculatus</i>) の発音制御神経束の同定に関する研究
	昭和55年度	片 桐 謙	アコースティック・エミッションによる非破壊検査のための二・三の基礎計測
	〃	川 上 勝 己	無限要素とその開領域問題解析への応用
	〃	前 田 豊 信	圧電振動体の温度特性の有限要素シミュレーション
工 業 化 学 (6名)	〃	赤 澤 信 昭	北海道炭の還元エチル化物の水素化分解機構
	〃	大 村 裕	石炭還元メチル化物の構造解析 — n・ヘキサン可溶分の GC-MS 分析—

工業 化学 (6名)	昭和55年度	飯塚 幸彦	l-(P-またはm-置換フェニル) エチルフェニルスルホキシドの脱離反応に対する同位体効果および立体異性体の反応性について
	〃	馬場 孝	l-(P-またはm-置換フェニル) エチルフェニルスルフィドの酸化反応に対する二・三の検討
	〃	松本 孝直	パラジウム-水素系の電気化学的性質について
	〃	三宅 博之	石炭還元メチル化物の構造解析 —各種溶剤可溶分の GPC 分別物について—
金属 工学 (7名)	〃	今井 克哉	合金の凝固時における組織粗大化現象の直接観察
	〃	角地 秀介	時効性Al-Mg-Si合金の加工熱処理
	〃	砂田 聡	硫化ニッケルの浸出反応に関する研究
	〃	瀬良 芳憲	ガス分析法によるMnO ₂ のMnOまでの炭素熱還元の研究
	〃	塚本 淳一	鋳鉄中の黒鉛による防振特性について
	〃	舟木 克之	Al-Mg合金における羽毛状晶の生成について
機械 工学 (3名)	〃	渡辺 徹也	Al-Mg合金のセレーションについて
	〃	大野木 敬	表面が帯状移動熱源によって加熱される厚板の非定常熱応力に関する研究
	〃	高辻 成次	回転直管内における強制対流熱伝達について
生産機 械工学 (1名)	〃	中村 忠能	静圧スラスト軸受の動特性におよぼす流体の慣性力の影響
化学 工学 (6名)	〃	林 清一	超塑性合金の引張変形特性に及ぼす超音波振動付加の影響
	〃	川上 隆司	水平回転円錐型容器による造粒と分粒との同時操作
	〃	菊川 正之	Capillary Siphoning による固液分離
	〃	近藤 敏	硫化亜鉛ペレットの酸化
	〃	清水 学	塩ビ重合缶のシミュレータ設計
	〃	高橋 久雄	蒸気爆発実験データの多変量解析
電子 工学 (5名)	〃	鍋島 勝	液体膜透過による銅(II)イオンの分離
	〃	岡本 篤	V ₂ O ₃ の金属-絶縁体転移とRaman散乱
	〃	木下 敏司	垂直磁化モード磁気記録の研究 Co-Cr DC スパッタ膜の垂直記録特性
	〃	篠川 敏行	手書き文字パターンのストローク抽出
	〃	宮本 聡	マイコンによる音声認識
〃	山瀬 真也	スプレー法による Cu In S ₂ 膜の作製とその電気光学特性	



人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	57. 3. 1	藤 木 彌三郎		事務補佐員(附属図書館)	富山大学長
	57. 3. 8	三 村 優美子		〃 (経理部主計課)	〃
	57. 4. 1	釘 貫 亨		講師(人文学部)	〃
	〃	阿 部 美知夫		教諭(教育学部附属中学校)	〃
	〃	紺 道 正 子		〃 (〃)	〃
	〃	舟 杉 博 稔		〃 (教育学部附属養護学校)	〃
	〃	丹 波 清 美		〃 (〃)	〃
	〃	長 戸 頼 子		〃 (〃)	〃
	〃	伊 藤 良 広		講師(経済学部)	〃
	〃	小 嵐 典 明		〃 (〃)	〃
	〃	新 里 泰 孝		助手(〃)	〃
	〃	相 澤 吉 晴		〃 (〃)	〃
	〃	河 田 洋		〃 (理 学 部)	〃
	〃	庄 司 正 文		文部事務官(富山大学経理部経理課)	〃
	〃	田 村 修 一		〃 (富山大学人文学部・理学部)	〃
	〃	織 田 世 起		〃 (富山大学教育学部)	〃
〃	大 山 口 由 利		〃 (〃)	〃	

	57. 4. 1	北 角 政 信		文部事務官(経済学部)	富山大学長
	〃	津 島 浩 司		〃 (工学部)	〃
	〃	酒 井 充		文部技官 (〃)	〃
	〃	長谷川 美 香		文部事務官(教養部)	〃
	〃	脇 坂 勝 人		〃 (附属図書館)	〃
	〃	山 田 勇 一		〃 (経営短期大学部)	富山大学経営短期大学部学長
	〃	西 野 英 子		事務補佐員(庶務部庶務課)	富山大学長
	〃	新 村 栄 子		〃 (経理部主計課)	〃
	〃	五十嵐 仁 子		〃 (経理部経理課)	〃
	〃	木 村 恵 子		〃 (施設課)	〃
	〃	藤 野 敏 子		〃 (人文学部・理学部)	〃
	〃	高 柳 徳 枝		〃 (教育学部)	〃
	〃	坂 林 梅 松		臨時用務員(経済学部作業員)	〃
	〃	國 分 みより		事務補佐員(教養部)	〃
	〃	金 森 寿 子		〃 (附属図書館)	〃
昇 任	57. 3. 1	白 川 郁 子	助教授(教育学部)	教授(教育学部)	文部大臣
	57. 4. 1	神 前 進 一	助手(人文学部)	講師(人文学部)	富山大学長
	〃	元 治 信 雄	助教授(教育学部)	教授(上越教育大学学校教育学部)	文部大臣
	〃	淺 田 實	〃 (〃)	〃 (教育学部)	〃
	〃	加 瀬 正二郎	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	角 森 正 雄	助手(経済学部)	講師(経済学部)	富山大学長
	〃	小 嶋 學	助教授(名古屋大学理学部 附属臨海 観測所)	教授(理学部)	文部大臣
	〃	龍 山 智 栄	〃 (工学部)	〃 (工学部)	〃
	〃	上 羽 弘	助手 (〃)	助教授 (〃)	〃
	〃	柳 瀬 秋 夫	〃 (〃)	講師 (〃)	富山大学長
	〃	桂 木 健 次	助教授(教養部)	教授(教養部)	文部大臣
	〃	高 安 和 子	講師 (〃)	助教授 (〃)	〃
	〃	鈴 木 孝 志	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	三 原 健 一	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	小 林 正 幸	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	北 村 潔 和	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	三ッ井 讓	教諭(教育学部附属養護学校)	教頭(教育学部附属養護学校)	〃
	〃	岡 田 東 彦	経理部経理課用度係物品管理主任	富山工業高等専門学校 会計 課納係長	富山工業高等専門学校長
	〃	山 田 正 芳	文部事務官(附属図書館)	富山商船高等専門学校 学生 課書 係	富山商船高等専門学校長
	〃	竹 治 聰	〃 (庶務部庶務課)	庶務部庶務課 学 調査係研究協力主任	富山大学長
	〃	高 野 俊 英	〃 (経理部経理課)	経理部経理課 給与係共済組合主任	〃

	57. 4. 1	伊 野 不 二 夫	文部事務官(人文学部・理学部)	人文学部・理学部庶務係庶務主任	富山大学長
	〃	泉 田 享 一	〃 (教 養 部)	工学部学務係学生主任	〃
	〃	地 崎 昇	〃 (工 学 部)	経営短期大学部総務係総務主任	富山大学経営短期大学部学長
転 任	〃	横 山 正 弘	富山工業高等専門学校 会計 課出納係長	附属図書館総務係長	富山大学長
	〃	瀧 野 康 雄	富山商船高等専門学校 学生課図書係長	附属図書館閲覧係長	〃
	〃	江 藤 憲 和	経営短期大学部 総務係総務主任	経済学部会計係会計主任	〃
	〃	田 中 正 博	文部事務官(経営短期大学部)	文部事務官(人文学部・理学部)	〃
	〃	永 田 義 則	文部技官 (名古屋工業大学工学部)	〃 (学 生 課)	〃
	〃	向 川 政 彦	文部事務官(人文学部・理学部)	〃 (福井大学庶務課)	福井大学長
	〃	霜 越 隆 晴	〃 (〃)	〃 (上越教育大学会計課)	上越教育大学長
	〃	道 林 一 郎	〃 (教育学部)	〃 (富山医科薬科大学 教務部研 究力課)	富山医科薬科大学長
配置換	〃	山 崎 幸 雄	助教授(人文学部)	助教授(新潟大学人文学部)	文部大臣
	〃	山 崎 高 哉	〃 (教育学部)	〃 (京都大学教育学部)	〃
	〃	佐 藤 文 隆	〃 (経済学部)	〃 (東北大学経済学部)	〃
	〃	岩 本 光 悦	〃 (教 養 部)	〃 (山口大学教養部)	〃
	〃	本 田 俊 一	学生部次長	岐阜大学学生部次長	〃
	〃	内 藤 信	旭川医科大学教務部長	学生部次長	〃
	〃	北 川 功 二	経理部主計課長	文部省大学局医学教育課課長補佐	〃
	〃	阿 部 利 夫	高知医科大学総務部会計課長	経理部主計課長	〃
	〃	安 守 数 雄	附属図書館総務係長	教育学部附属学校第一係長	富山大学長
	〃	斉 藤 隆	附属図書館整理係長	附属図書館参考係長	〃
	〃	塩 谷 孝 雄	附属図書館参考係長	附属図書館整理係長	〃
	〃	北 川 功	工学部会計係経理主任	経理部主計課総務係監査主任	〃
	〃	牧 野 秀 応	経理部主計課管財係管財主任	経理部主計課司計係予算主任	〃
	〃	桶 喜 一	経理部経理課 給与係共済組合主任	経理部主計課管財係管財主任	〃
	〃	柴 田 富美枝	経済学部会計係会計主任	経理部経理課出納係出納主任	〃
	〃	松 田 幹 夫	経理部主計課総務係監査主任	経理部経理課用度係物品管理主任	〃
	〃	高 邑 欣 市	人文学部・理学部学務係学生主任	学生課学生係学生主任	〃
	〃	尾 山 吉 昭	工学部学務係学生主任	学生課入学試験係入学試験主任	〃
	〃	河 上 孝	教育学部会計係会計主任	人文学部・理学部経理係経理主任	〃
	〃	渡 辺 登美枝	教育学部学務係学生主任	人文学部・理学部学務係学生主任	〃
	〃	本 吉 友 治	教養部庶務係庶務主任	教育学部庶務係庶務主任	〃
	〃	吉 沢 誠	経理部主計課司計係予算主任	教育学部会計係会計主任	〃
	〃	竹 下 義 美	学生課入学試験係入学試験主任	教育学部学務係学生主任	〃
	〃	松 本 進	経理部経理課出納係出納主任	工学部会計係経理主任	〃
	〃	大 崎 秀 雄	庶務部庶務課学事調査係法規主任	教養部庶務係庶務主任	〃

	57. 4. 1	田 中 輝 和	文部事務官(工 学 部)	文部事務官(庶務部庶務課)	富山大学長
	〃	松 本 修 一	〃 (経済学部)	〃 (庶務部人事課)	〃
	〃	能 波 輝 之	〃 (経理部経理課)	〃 (経理部主計課)	〃
	〃	佐 藤 淳	〃 (経理部主計課)	〃 (経理部経理課)	〃
	〃	田 中 茂	〃 (教養部)	〃 (〃)	〃
	〃	山 本 悦 子	〃 (人文学部・理学部)	〃 (厚生課)	〃
	〃	能 手 哲 治	〃 (工 学 部)	〃 (人文学部・理学部)	〃
	〃	笹 岡 博 史	〃 (教養部)	〃 (〃)	〃
	〃	堀 和 實	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	佐久間 克 明	〃 (人文学部・理学部)	〃 (教育学部)	〃
	〃	宮 尾 幸 一	〃 (教育学部)	〃 (経済学部)	〃
	〃	水 口 妙 子	〃 (厚生課)	〃 (経済学部)	〃
	〃	保 正 邦 久	〃 (学生課)	〃 (〃)	〃
	〃	中 島 澄 子	〃 (工 学 部)	〃 (〃)	〃
	〃	鹿 島 光 雄	〃 (人文学部・理学部)	〃 (工 学 部)	〃
	〃	大聖寺 一 孝	〃 (経済学部)	〃 (〃)	〃
	〃	松 村 才 薫子	〃 (〃)	〃 (〃)	〃
	〃	田 子 直 幾	〃 (附属図書館)	〃 (〃)	〃
	〃	岩 永 晴 雄	〃 (〃)	〃 (教養部)	〃
	〃	上 木 祐 一	〃 (教育学部)	〃 (〃)	〃
	〃	大 西 光 男	〃 (経済学部)	〃 (〃)	〃
	〃	新 井 浩	〃 (教育学部)	〃 (〃)	〃
	〃	石 田 精 一	〃 (人文学部・理学部)	〃 (附属図書館)	〃
	〃	野 村 幸 弘	〃 (経理部経理課)	〃 (〃)	〃
	〃	杉 林 正次郎	用務員(経理部経理課作業員)	〃 (経理部主計課警務員)	〃
	〃	角 井 架 子	文部事務官(附属図書館)	〃 (附属図書館工学部分館)	〃
併 任	57. 3. 31	大 塚 恵 一	教 授(教育学部)	評議員(58. 5.31まで)	文部大臣
	57. 4. 1	本 田 弘	〃 (人文学部)	教 授(文理学部)(58. 3.31まで)	〃
	〃	山 村 敬	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	楠 瀬 勝	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	小 谷 仲 男	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	長 沼 忠兵衛	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	木 下 良	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	都 竹 通年雄	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	山 口 博	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	三 宝 政 美	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃

57. 4. 1	平 田 純	教 授(人文学部)	教 授(文理学部)(58. 3.31まで)	文部大臣
〃	奥 田 平八郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	吉 田 清	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	提 山 淑 郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	中 本 昌 年	助教授(〃)	助教授(〃)(〃)	〃
〃	木 下 喬	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	鎌 田 元 一	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	岡 本 明	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	佐 藤 進	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	寺 津 典 子	〃 (〃)	〃 (〃)(57. 9.30まで)	〃
〃	北 村 純 一	〃 (〃)	〃 (〃)(58. 3.31まで)	〃
〃	山 口 幸 祐	講 師(〃)	講 師(〃)(〃)	富山大学長
〃	田 中 久 雄	教 授(教育学部)	教育学部附属小学校長 (59. 3.31まで)	文部大臣
〃	鶴 木 利 雄	〃 (〃)	〃 附属中学校長 (〃)	〃
〃	藤 井 敏 孝	〃 (〃)	〃 附属養護学校長 (〃)	〃
〃	泉 敏 郎	〃 (〃)	〃 附属幼稚園長 (〃)	〃
〃	中 村 良 郎	〃 (理 学 部)	教 授(文理学部)(58. 3.31まで)	〃
〃	北 野 孝 一	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	風 卷 紀 彦	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	田 中 専 一 郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	斉 藤 好 民	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	松 本 賢 一	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	杉 田 吉 充	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	中 川 正 之	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	児 島 毅	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	高 木 光 司 郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	竹 内 豊 三 郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	川 井 清 保	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	後 藤 克 己	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	横 山 泰	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	川 瀬 義 之	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	小 黒 千 足	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	久 保 和 美	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	小 林 貞 作	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	広 岡 公 夫	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
〃	渡 邊 義 之	助教授(〃)	助教授(〃)(〃)	〃

	57. 4. 1	鈴木正昭	助教授(理学部)	助教授(文理学部)(58. 3.31まで)	文部大臣
	〃	関口健	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	近堂和郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	平山実	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	岡部俊夫	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	常川省三	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	安田祐介	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	金坂績	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	田口茂	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	尾島十郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	鳴橋直弘	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	井上弘	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	菅井道三	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	小畑正明	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	道端斎	講師(〃)	講師(〃)(〃)	富山大学長
	〃	東川和夫	助手(〃)	助手(〃)(〃)	〃
	〃	水野透	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	菅谷孝	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	林 有一	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	吉田喜孝	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	中川邦明	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	高安紀	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	金森寛	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	東軒克夫	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	南部睦	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	山口晴司	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	笹山雄一	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	野口宗憲	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	増田恭次郎	〃 (〃)	〃 (〃)(〃)	〃
	〃	梅原隆章	教授(教養部)	教養部長・評議員(59. 3.31まで)	文部大臣
	〃	斉藤純一	庶務部人事課給与係給与主任	金沢大学経理部情報処理課 (57. 8.31まで)	金沢大学長
	〃	水口妙子	文部事務官(経済学部)	文部事務官(附属図書館)	富山大学長
公の名称 の附加	〃	大澤欽治	教授(教育学部)	教育学部附属教育実践研究指導 センター長 事竊扱を命ずる	文部大臣
公の名称 の消滅	57. 3. 29	野村昇	〃 (〃)	教育学部長事務代理を免ずる	富山大学長
職務命令	57. 4. 1	杉本周平	文部事務官(庶務部庶務課)	庶務部庶務課 企画係 企画を命ずる	〃
	〃	武田知己郎	〃 (施設課)	施設課企画係企画主任を命ずる	〃

	57. 4. 1	谷口和則	文部事務官(工学部)	工学部庶務係人事主任を命ずる	富山大学長
	〃	竹治聰	〃 (庶務部庶務課)	庶務部庶務課学事 讞係 研究協力主任を 免る	〃
	〃	永盛祐介	文部技官 (経理部経理課自動車運転手)	経理部経理課車庫長を命ずる	〃
	〃	植吉和政	文部技官(教育学部自動車運転手)	教育学部副車庫長を命ずる	〃
辞 職	57. 3. 25	四日晴美	事務補佐員(附属図書館)	辞職を承認	〃
	57. 3. 31	今津藤一	教授(教育学部)	〃	文部大臣
	〃	中山法遂	教諭(教育学部附属中学校)	〃	富山大学長
	〃	高瀬泉	〃 (教育学部附属養護学校)	〃	〃
	〃	立野弓月	〃 (〃)	〃	〃
	〃	香川孝三	助教授(経済学部)	〃	文部大臣
	〃	油井雄二	〃 (〃)	〃	〃
	〃	中村哲夫	〃 (教養部)	〃	〃
	〃	高岡博	工学部管理係長	〃	富山大学長
	〃	柴野貞子	文部事務官(工学部電話交換手)	〃	〃
	57. 4. 1	島木信子	教頭(教育学部附属養護学校)	〃	文部大臣
	〃	畠山和子	教諭(教育学部附属中学校)	〃	富山大学長
	〃	沢田義雄	文部事務官 (経理部主計課警務員)	〃	〃
	〃	清水タカ子	人文学部・理学部 庶務係庶務主任	〃	〃
	〃	沖健松	教育学部附属学校第一係長	〃	〃
	〃	山本喜太郎	文部技官(工学部)	〃	〃
	〃	本田善彦	附属図書館閲覧係長	〃	〃
退 職	57. 3. 21	藤木彌三郎	事務補佐員(附属図書館)	昭和57年3月20日限り退職	〃
	〃	梅澤美枝子	〃 (〃)	〃	〃
	57. 3. 31	花田博子	〃 (経理部主計課)	昭和57年3月30日限り退職	〃
	57. 4. 1	武田清美	〃 (教育学部)	昭和57年3月31日限り退職	〃
	〃	大西圭造	臨時用務員(経済学部作業員)	〃	〃
	〃	増田文彦	教務補佐員(教養部)	〃	〃
	〃	藤田洋子	事務補佐員(附属図書館)	〃	〃

学 内 諸 報

トリチウム科学センター長の改選

竹内豊三郎トリチウム科学センター長の任期が昭和57年 4月30日で満了することに伴い、トリチウム科学センター運営委員会は、3月24日に次期トリチウム科学センター長候補者の選定を行い、その結果、現職の竹内豊三郎理学部教授が再選された。任期は昭和57年 5月 1日から昭和58年 4月 1日まで。

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	官職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	助教授	實 清隆	アメリカ合衆国, 連合王国, フランス, スイス, イタリア, ギリシア, トルコ, ルーマニア, ハンガリー, スウェーデン, ドイツ連邦共和国	欧米における比較都市地理学的研究のため	57. 3. 15 } 58. 3. 14
	トリチウム科学センター	助手	松山 政夫	アメリカ合衆国	金属及び酸化物に対するトリチウムの透過に関する研究調査のため	57. 3. 1 } 57. 5. 9
	経営短期大学部	教授	松嶋 道夫	ソビエト連邦, デンマーク, スウェーデン, 連合王国, オランダ, ドイツ連邦共和国, フランス, イタリア	ヨーロッパにおける家族問題と老後保障の研究のため	57. 3. 15 } 58. 1. 14
海外研修旅行	理学部	助教授	鳴橋 直弘	台 湾	台湾のバラ科植物の調査研究のため	57. 3. 10 } 57. 3. 20
	〃	〃	對馬 勝年	アメリカ合衆国	氷の付着に関する研究のため	57. 3. 29 } 58. 4. 3

学内レクリエーション

◇ボウリング大会

実施月日 3月20日(土)

場 所 呉羽スポーツプラザ

参加人員 41名

競技方法 3ゲームトータル、アメリカン方式、ハンデー採用

成 績 優 勝 川上重信(経済学部)

次 勝 山田知訓(教育学部)

3 位 道林一郎()

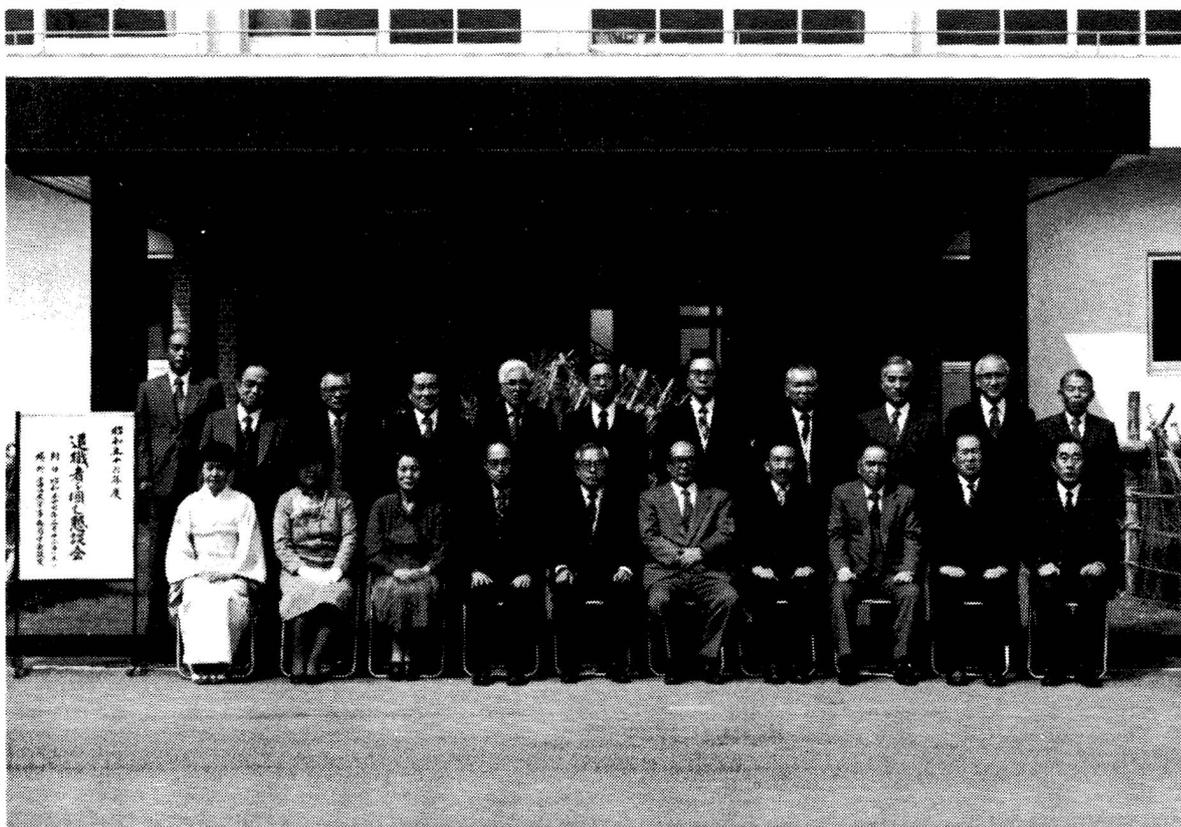
H・G 川上重信(経済学部)

B・B 熊野裕子()

退職者を囲む懇談会開催

昭和56年度に富山大学を停年又は勸奨により退職された方々を囲む懇談会が、3月13日(土)12時から事務局中会議室において開催されました。

懇談会に先立ち、事務局玄関前において出席者全員による記念撮影が行われ、引き続き開催された懇談会では、記念品贈呈、学長あいさつ、退職者代表謝辞などがあり和やかな雰囲気の中で懇談がなされ、学長並びに各部署長等から永年の労をねぎらわれました。



なお、昭和56年度の停年又は勸奨による退職者は、次のとおりです。

〔停年又は勸奨による退職者〕

○経理部主計課	文部事務官	沢田義雄
○人文学部・理学部	文部事務官	清水タカ子
○教育学部	文部教官	島木信子
〃	文部教官	畠山和子
〃	文部事務官	沖 健松
○経済学部	文部教官	新田隆信
〃	文部教官	岩淵富治
○工学部	文部技官	山本喜太郎
○附属図書館	文部事務官	本田善彦
〃	文部事務官	荒屋克子（昭56.12.31付け）

職 員 消 息

《新任者》

経 理 部

主計課長 阿部 利夫
 文部事務官 庄司 正文
 事務補佐員 三村優美子

学 生 部

学生部次長 内藤 信

文部事務官 永田 義則

人文学部

講 師 釘貫 亨

人文学部・理学部

文部事務官 田村 修一

教育学部

文部事務官 織田 世起
 〃 大山口由利
 附属中学校 紺道 正子
 教 諭
 〃 阿部美知夫
 附属養護学 舟杉 博稔
 校 教 諭
 〃 丹波 清美

〃 長戸 頼子
事務補佐員 高柳 徳枝

経済学部

講 師 伊藤 良広
〃 小嵩 典明
助 手 相澤 吉晴
〃 新里 泰孝
文部事務官 北角 政信
臨時用務員 坂林 梅松

理学部

教 授 小嶋 学
助 手 河田 洋

工学部

文部事務官 津島 浩司
文部技官 酒井 充

教養部

文部事務官 長谷川美香

附属図書館

総務係長 横山 正弘
閲覧係長 滋野 康雄
文部事務官 脇坂 勝人
事務補佐員 金森 寿子

経営短期大学部

文部事務官 山田 勇一

《住所変更》

富山大学長 柳田 友道

教育学部

教 授 河野 信弘
文部事務官 新井 浩

経済学部

助 教 授 後藤 康夫

工学部

事務補佐員 坂下れい子

教養部

文部事務官 安川 範昭

訃 報

富山大学名誉教授 長元亀久男氏逝去

本学名誉教授 長元亀久男氏は、昭和57年3月12日骨髄腫高カルシウム血症のため逝去されました。
享年75才

ここに御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和2年3月金沢高等工業学校機械工学科を卒業され、その後、株式会社東京石川島造船所及び浦賀船渠株式会社に勤務、昭和14年11月多賀高等工業専門学校講師を嘱託し、同校助教授、教授を経て、昭和22年12月高岡工業専門学校教授に就任、昭和26年3月富山大学教授（工学部）に配置換、昭和46年3月停年により退官された。この間20有余年にわたり、機械力学講座を担当し、多数の優れた学生の育成に当たられるとともに創設間もない工学部の設備の充実、教官の補充等に努力され、また、評議員として本学の管理運営に参画し、本学の発展の為に尽力されました。

また、研究面では、機械工学全般を近代化した画期的な教科書として広く大学で使用されている著書及び機械力学、構造力学に関する研究論文が30数編に及び学会において高く評価されています。

以上の功績により、昭和51年11月勲三等旭日中綬章を授与されました。

停年退官後も、引続き岡山理科大学教授として教育研究に従事され、生涯のすべてを教育・研究に専念し多大の貢献をされました。

なお、葬儀は3月15日午前10時から金沢市寺町極楽寺において執り行われました。

主 要 行 事

本 部

3月

- | | | | |
|----|-----------------------------------|--------|-------------------------|
| 2日 | 第3回富山大学事務用電子計算機機種選定委員会 | 9日 | 第5回学生部組織小委員会（於東京大学） |
| | 第4回教務委員会 | 13日 | 第7回大学院委員会 |
| | 高岡産業短期大学（仮称）の教育課程等に関する会議（於富山電気ビル） | | 第12回評議会 |
| 4日 | 昭和57年度富山大学入学者選抜学力検査 | | 退職者を囲む懇談会 |
| 5日 | （教育学部実技検査） | 14日 | 昭和57年度富山大学合格者発表 |
| | 第1回富山大学短期高等教育機関（高岡）創設準備委員会 | 15日 | 第18回学寮補導委員会 |
| 8日 | 第24回北陸5大学施設担当者協議会（於富山医科薬科大学） | 16日 | 第4回入学者選抜方法研究委員会専門委員会 |
| | | 17日 | 第4回富山大学事務用電子計算機機種選定委員会 |
| | | 18～19日 | 昭和56年度厚生補導担当教官研究会（於黒部荘） |
| | | 20日 | 昭和56年度学内ボーリング大会 |
| | | 23日 | 富山大学短期高等教育機関（高岡）創設準備委員会 |

備委員会専門委員会
 会計係長会議
 25日 昭和56年度富山大学卒業式（於富山市公会堂）
 名誉教授との懇談会
 部課長会議
 第7回事務協議会
 第2回事務改善委員会

19日 入試検討委員会
 附属中学校第3学期修業式
 20日 附属小学校第3学期修業式
 附属養護学校第3学期修業式
 23日 日本教育大学協会附属学校委員会（於東京学芸大学）
 24日 特別教職課程委員会
 教育実践研究指導センター設立委員会
 26日 補導委員会

文 理 学 部

3月25日 学部卒業証書授与式及び卒業祝賀会
 （於(文学科)県民会館8階, (理学科)朝日生命ビル7階）

人 文 学 部

3月11日 職業補導委員会
 予算委員会
 12日 教授会
 人事教授会
 17日 入学試験検討委員会
 教授会検討委員会
 23日 教務委員会
 教授会
 25日 学部卒業証書授与式及び卒業祝賀会（於県民会館8階）

教 育 学 部

3月
 6～12日 スキー実習（於志賀高原発哺温泉）
 12日 教務委員会
 教務委員会・補導委員会合同会議
 教授会
 15日 附属中学校卒業式
 16日 附属養護学校卒業式
 附属幼稚園卒園式
 17日 附属小学校卒業式
 附属幼稚園第3学期修業式
 18～19日 国立大学教育工学センター協議会及び研究会（於東京学芸大学）

経 済 学 部

3月4日 人事教授会
 12日 学部教務委員会
 拡大教務委員会
 人事教授会
 教授会
 17日 各種委員選考委員会
 日本海経済研究所運営委員会
 23日 日本海経済研究所運営委員会・学部図書委員会合同委員会
 学部教務委員会
 教授会

理 学 部

3月12日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 17日 学科主任会議
 入学者選抜（健康診断）検討会議
 教務, 職業補導合同委員会
 25日 学部卒業証書授与式及び卒業祝賀会（於朝日生命ビル7階）

工 学 部

3月1日 昭和57年度入学者選抜学力検査実施要項打ち合わせ会
 4日 昭和57年度入学者選抜学力検査（於工学部）
 12日 教授会

工学研究科委員会
 専任教授会
 14日 富山大学合格者発表（於工学部）
 24日 学部教務委員会

保健管理センター

3月4日 昭和57年度富山大学入学者選抜健康診断

教 養 部

3月3日 教務委員会
 教授会
 教授のみの教授会
 10日 補導委員会

経営短期大学部

3月6日 第4回入学者選抜学力試験委員会
 11日 第18回教授会
 13日 学生と教職員懇談会
 16日 第1回編入学選考委員会
 17日 編入学者選抜試験
 第2回編入学選考委員会
 18日 第5回入学者選抜学力試験委員会
 第19回持ち回り教授会
 19日 第20回持ち回り教授会
 26日 第21回教授会
 29日 昭和57年度経営短期大学部合格者発表

附属図書館

3月4日 図書館業務電算化研究会
 18日 〃
 23日 係長事務打ち合わせ会
 31日 〃

トリチウム科学センター

3月24日 トリチウム科学センター運営委員会

- ◎ 退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!
 ◎ 電気、ガス、水の省エネ、省資源に協力しましょう!!

資 料

昭和56年度卒業（修了）者数

(昭和57年 3月25日付)

学 部	学科(課程)	卒 業 者 数
文理学部	文 学 科	4
	理 学 科	8
	計	12
人文学部	人 文 学 科	61
	語 学 文 学 科	69
	計	130
教育学部	小学校教員養成課程	134
	中学校教員養成課程	45
	養護学校教員養成課程	14
	幼稚園教員養成課程	26
	計	219
経済学部	経 済 学 科	116
	経 営 学 科	121
	経 営 法 学 科	—
	計	237
理学部	数 学 科	29
	物 理 学 科	33
	化 学 科	32
	生 物 学 科	31
	地 球 科 学 科	23
	計	148
工学部	電 気 工 学 科	42
	工 業 化 学 科	34
	金 属 工 学 科	24
	機 械 工 学 科	38
	生 産 機 械 工 学 科	37
	化 学 工 学 科	31
	電 子 工 学 科	43
	計	249
合 計		995

昭和56年度大学院修了者数

(昭和57年 3月25日付)

研 究 科	専 攻	修 了 者 数
理学研究科	数 学 専 攻	1
	物 理 学 専 攻	7
	化 学 専 攻	3
	生 物 学 専 攻	6
	地 球 科 学 専 攻	—
	計	17
工学研究科	電 気 工 学 専 攻	4
	工 業 化 学 専 攻	6
	金 属 工 学 専 攻	7
	機 械 工 学 専 攻	3
	生 産 機 械 工 学 専 攻	1
	化 学 工 学 専 攻	6
	電 子 工 学 専 攻	5
	計	32
合 計		49

専 攻 科	修 了 者 数
文 学 専 攻 科	12
教 育 専 攻 科	5
経 済 学 専 攻 科	—
合 計	17

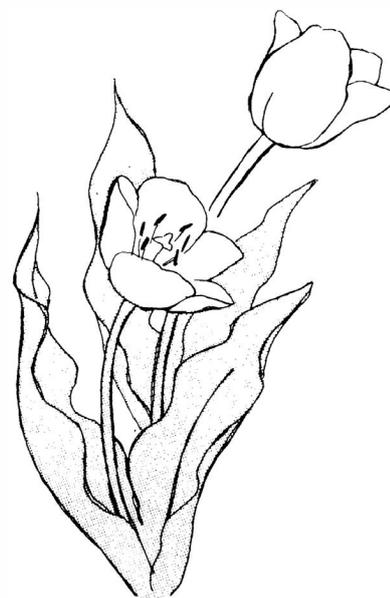
昭和57年度富山大学入学者選抜状況

経営短期大学部 経営学科第二部

学部	学科(課程)	募集 人員	志願者	受験者	欠席者 (1階 含む)	合格者
人 文	人文学科	90	393	363	30	90
	語学文学科	80	275	251	24	80
	小計	170	668	614	54	170
教 育	小学校教員 養成課程	140	239	236	3	140
	中学校教員 養成課程	50	131	127	4	50
	養護学校 教員 養成課程	20	72	72	0	20
	幼稚園教員 養成課程	30	138	135	3	30
	小計	240	580	570	10	240
経 済	経済学科	120	202	190	12	120
	経営学科	120	337	314	23	120
	経営法学科	60	182	171	11	60
	小計	300	721	675	46	300
理	数学科	40	80	75	5	40
	物理学科	40	60	59	1	40
	化学科	40	94	86	8	41
	生物学科	30	80	76	4	30
	地球科学科	30	60	60	0	30
	小計	180	374	356	18	181
工	電気工学科	50	102	101	1	50
	工業化学科	45	170	163	7	45
	金属工学科	40	138	132	6	40
	機械工学科	50	159	155	4	50
	生産機械工学科	40	93	87	6	40
	化学工学科	40	104	100	4	40
	電子工学科	40	78	76	2	40
	小計	305	844	814	30	305
合計		1,195	3,187	3,029	158	1,196

	募集人員	志願者	受験者	欠席者	合格者
一般	100	68(29)	61(24)	7(5)	56(23)
推薦		79	79	0	50
合計	100	147(29)	140(24)	7(5)	106(23)

(注) ()内数字は推薦入学不合格者の再受験等を内数で示す。



昭和57年度授業日程表

57. 4. 1

学部等	学 年	前 学 期		夏 季 休 業	後 学 期		冬 季 休 業	備 考
		授業(補講を含む)	期 末 試 験		授業(補講を含む)	期 末 試 験		
教 養 部	1. 2	4/12~7/14 9/1~9/14	9/16~9/29	7/15~8/31	10/15~12/23 58 1/12~2/19	2/21~3/1	58 12/24~1/11	2年生は、後学期専門 教育課程に移行
文理学部	—	4/15~7/14 9/6~9/18	—	7/15~9/5	10/15~12/23 58 1/17~2/19	—	58 12/24~1/16	集中講義 7/12~7/24, 9/20~9/25, 11/15 11/20, 12/20 ~2/25, 2/21 ~2/26,
人文学部	2.3.4	4/15~7/14 9/6~9/18	—	7/15~9/5	10/15~12/23 58 1/12~2/19	—	58 12/24~1/16	〃
教育学部	2.3.4	4/5~7/14	7/15~7/21	7/22~8/31	10/21~12/25 58 1/10~2/12	2/14~2/19	58 12/26~1/9	教育実習9/1~10/20
経済学部	2.3.4	4/9~7/13 9/1~9/11	9/13~9/22	7/14~8/31	10/15~12/23 58 1/10~2/15	2/16~2/24	58 12/24~1/8	
理学部	2.3.4	4/15~7/14 9/6~9/18	—	7/15~9/5	10/15~12/23 58 1/17~2/19	—	58 12/24~1/16	
工学部	2.3.4	4/15~7/14 9/6~9/25	—	7/15~9/5	10/18~12/25 58 1/10~2/19	—	58 12/26~1/9	

【編集後記】

今号から、学報の発行月日を3月分については「昭和57年4月1日発行」とし、毎月翌月の1日発行に変更しました。これは、1日付けの人事異動及び新任者等を速やかに皆様にお知らせするためのものです。

また、次号から保健管理センターから「健康だより(仮称)」を毎月掲載する予定です。御期待ください。

係では、学報の発行内容等について鋭意工夫をしていますが、皆様からの原稿並びに御意見等を御一報くださるようお待ちしております。

編 集	富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190
印刷所	あけぼの企画 富山市曙町9の1 電話 (33)3356(代)